日本腎臓学会
5カ年計画

FIVE-YEAR PLANS FOR JSN

2017

はじめに

一般社団法人日本腎臓学会のミッションは腎臓学・腎臓病学の研究と普及を通じて社会貢献をし，国民の負託に応えることにある．この使命を達成すべく，腎臓学の学理探究，人材育成，生涯教育の奨励，研究成果の社会還元・普及，国民の健康福祉への貢献と，学会活動は多岐にわたる．

疾患克服を目的に据えた学術研究の道程は平坦でも直線的でもなく，らせんを描きながら漸進的に深化して行くように考えている．未来を遠望し次世代を担う人材を育成しつつ，倦むことなく，遅滞なく組織として前進して行きたい．社会への貢献，次世代育成，腎臓学・腎臓病学の一層の進展，社会活動へのコミットメント，コミュニケーション・連携の強化，伝統の継承と革新，以上を学会活動の基本方針と定めている．

日本腎臓学会はこれまで，諸先輩の先見性のある卓越したリーダーシップと，貢献精神に富む学会員によって，成長を遂げてきた．この伝統を継承し，継続可能な盤石な基盤を構築し，社会貢献を行って行きたい．

「日本腎臓学会5カ年計画」は今後の日本腎臓学会の活動を決定する重要なグランドデザイン，アクションプランとなる．5カ年計画に基づき，重要度・緊急度の視点から，実施事業の優先度を決定し，計画に沿って事業を実施し，年度毎に進捗度を評価，計画修正を行う（PDCA: plan-do-check-act）ことで効率的に事業が展開できると考えている．学会活動は多岐にわたるが，事業を実施するた

めのリソースは無限ではなく，中長期的な視点での計画的な選択が必要となる．この活動は同時にInstitutional Research（IR）的な役割を担うことにもなる．評価には外部委員の参画も求め，またその活動内容をHP上等で高い透明性を持って開示し，社会に開かれた学会活動を展開して行きたい．

腎臓病診療の質向上，疾患克服に向けて，学会，行政，政策立案機関，医療関係企業等の関係者が，課題の所在を正確に理解し共有する，つまり「同じ風景を見る」必要がある．医療政策，学術政策，創薬に関与するステークホルダーとの交流機会・共通プラットフォーム創設に着手しているところである．

学会活動の総体を活性化・強化するためには，学術研究の卓越性の追求と同時に社会・国民との連携の強化が必要となる．高みを追求すると同時に裾野を拡大する作業は別個のものではなく，双方向性に連動するものである．広大な裾野があって，初めて高い頂きを形成することができ，頂きの高みは自ずから基盤の広がりを求めることは理路である．大きな山容をもった「学会」を形成し，次世代に継承して行きたい．5カ年計画は3次元的な活動のロードマップとなる．

日本腎臓学会は，腎臓学を通じて社会に貢献することを使命としている．学会員のみならず，社会からの幅広い支援を得ることが必要である．社会との緊密なコミュニケーションを維持して，腎臓病克服を目指して活動を展開して行きたい．この5カ年計画はその道標となるものである．

一般社団法人 日本腎臓学会 理事長
柏原直樹

I 基本方針

1 概略：ビジョン，ミッション，ゴール

腎臓学・腎臓病学の研究と普及を通じて社会貢献をし，国民の負託に応えることを日本腎臓学会のビジョンと定めている．このビジョンを達成すべく，腎臓学の学理探究，人材育成，生涯教育の奨励，研究成果の社会還元・普及，国民の健康福祉への貢献を本学会のミッションとする．
このビジョンとミッションを実現すべく，5カ年計画の到達目標（ゴール）を以下のように設定する．

1. 社会とのコミュニケーション・連携の強化
2. 人材育成，次世代への継承
3. 研究力強化，国際連携・協働の緊密化
4. 安定した財務基盤の構築
5. 学会運営組織の基盤強化

2 基本方針

1. わが国の腎臓・腎臓病領域における学術研究・サイエンスの卓越性を追求すると同時に，当該領域のステークホルダー（他職種，他学会，行政，企業，患者団体等）との連携を強化する．大きな山容を有する学会像を構想する．頂きの高みを追求する力と裾野を拡大する力は双方向性に相乗的に作用しあう．広大な裾野の上に初めて卓越した頂きを形成することが可能となる．
2. ビジョン実現のために，常に腎臓学会として取り組むべき課題の把握とその更新作業を行う．
3. 社会・国民とのコミュニケーション，情報発信の強化，関連諸団体とのより緊密な連携を推進する．
4. 腎臓病の革新的医療を開発し社会貢献するために，学会としてイノベーション加速のためのプラットフォームを構築する．アカデミアとしての腎臓学会，行政機関，製薬・医療機器企業体の連携が可能となるALL Japanのプラットフォーム（Kidney Research Initiative – Japan: KRI-J）を創設し発展させる．
5. 事業の妥当性と評価を定期的に実施し，事業内容の適正化を行う．

3 医療政策への提言

適切な医療政策に関する提言を行うため，エビデンスに基づいた提言による医療政策立案への関与 EBPM（Evidence based policy making）を行う．EBPM推進のために，政策提言のための基盤データの整備が肝要であり，現在腎臓学会が行っているJ-RBR（Japan Renal Biopsy Registry），

J-KDR（Japan Kidney Disease Registry），J-CKD-DB（Japan CKD database）などのデータ整備事業を更に発展させる．

日本腎臓学会 5 カ年計画

1. 日本腎臓学会の目指すべき方向性と果たすべき役割

❶ 国内外の関連学会と協同し，わが国の腎臓病対策における医療政策，提供される医療の方向性が国民にとって最適・最善なものとなるべく活動する

❷ 研究力の強化とともに国際競争力を向上させ，特にアジア腎臓学における主導的役割を果たす

【5 つの重要課題】

社会とのコミュニケーション・連携の強化　人材育成，次世代への継承

研究力強化，国際連携・協働の緊密化　安定した財務基盤の構築　学会運営組織の基盤強化

2. 重要課題達成に向けた方策への提言と具体案

社会とのコミュニケーション・連携の強化

関連省庁，団体との継続的な接触と意見交換を積極的に実施する

人材育成，次世代への継承

教育・専門医制度委員を新たに設け，従来実施してきた専門医教育のみならず，人材確保に向けて新専門医制度下における腎臓病専門医の適切なポジションの獲得を目指す

研究力強化，国際連携・協働の緊密化

腎臓領域における基礎・臨床研究トレンドの分析および学会主導の臨床研究，TRの推進により，基礎研究から研究結果の社会への還元までのプロセスを強化・促進する

ISN, ASN，ERA/EDTAとの連携を加速させるとともに，APSN を軸としつつアジアでのリーダーシップを維持・進展させるべく積極的な人的交流を進める

安定した財務基盤の構築

財務委員会機能を最大活用し，事業の目的適合性，必要度，達成可能性など考慮した予算編成・配分の厳格化を図る．学術活動に伴う収益事業活動の可能性検討を進める

学会運営組織の基盤強化

理事長のリーダーシップに基づく方向性の策定と，その達成に向けた理事長直轄事業の設定および理事会の更なる活性化を推進する

日本腎臓学会 5 カ年計画

TR: Translational Research
ISN: International Society of Nephrology
ASN: American Society of Nephrology
ERA/EDTA: European Renal Association/European Dialysis and Transplantation Association
APSN: Asian Pacific Society of Nephrology

Ⅱ 基礎研究

腎臓病はひとたび病態が進行し，一定点を越えると治癒可能性は低くなり，最終的には生命維持のために腎代替療法が必要となる．
腎臓病に対する有効な予防・重症化抑制法の確立，治療法開発が待たれているが，日本からの腎臓関連の学術論文総数は諸外国の増加率と比較すると十分なものではない．最大の原因は，腎臓領域における基礎研究の相対的弱体化によるものと考えられるが，その根本は基礎研究を実施する研究者の減少であることが指摘されている．このような時代背景において，基礎研究の推進に対して有効な対策が実行できていない状況を踏まえ，科学立国であるわが国の腎臓研究を推進するため，日本腎臓学会は以下の具体的な対策を講じる．

1 基礎研究者確保のための活動

1. セミナーを実施し，学術総会でのセッションを充実させる．
2. 学会プログラム，ホームページなどを通じて，研究者のプロフィールを紹介していく．
3. 研究助成金制度を拡充する．
4. 人材活用を促進する．
5. 海外留学の啓発と援助を実施する．
6. 海外留学中日本人研究者のための求職情報サイトを開設する．

2 基礎研究者のモチベーションの向上のための活動

1. 研究業績に対する表彰制度を増設する．
2. MD研究者のキャリアパスを提示する．
3. PhD研究者のキャリアパスを紹介・提示する．

3 学会主導の研究プロジェクトの創成

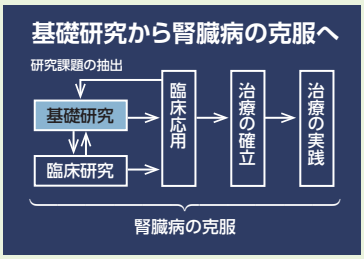
1. 国・行政・他学会との連携を強化する．
2. 学会主導研究テーマを選定・支援する．
3. 実用化に向けたサポートを行う．
4. 研究成果の公表の場を提供する．

4 研究リソース，分析，集約と発信・周知

1. 基礎系学会との連携を強化する．
2. 国内・外の共同研究をコーディネイトする．
3. 研究室の共用可能リソースやデータの有効利用を促進する．

腎臓病の克服基礎研究の推進

世界をリードする腎臓研究の遂行
次世代研究者の育成
基礎研究を通じた社会貢献

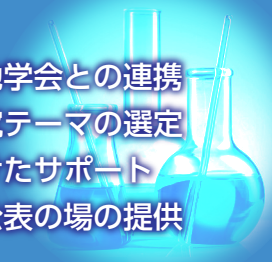


1. 基礎研究者確保のための活動

(1) セミナーの実施，学術総会でのセッション充実
(2) 研究者のプロフィール紹介の実施（学会プログラム，HP）
(3) 研究助成金制度の拡充
(4) 人材活用の促進
(5) 海外留学の啓発と援助の実施
(6) 海外留学中日本人研究者のための求職情報サイトの開設

3. 学会主導の研究プロジェクトの創成

(1) 国・行政・他学会との連携
(2) 学会主導研究テーマの選定
(3) 実用化に向けたサポート
(4) 研究成果の公表の場の提供



2. 基礎研究者のモチベーションの向上の活動ための活動

(1) 研究業績に対する表彰制度の増設
(2) MD 研究者のキャリアパスの提示
(3) PhD 研究者のキャリアパスの紹介・提示

研究リソース，分析，集約と発信・周知

(1) 基礎系学会との連携
(2) 国内・外の共同研究のコーディネイト
(3) 研究室の共用可能リソースやデータの有効利用促進

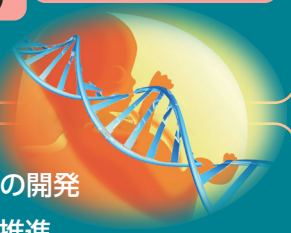
4. わが国における基礎研究課題

総透析患者数：　約 32 万人
新規透析導入患者数：　約 4 万人／年

✦透析導入予防に向けた新規治療法の開発

生活習慣病
高齢化
⬇
糖尿病性腎臓病
腎硬化症
急性腎障害（AKI）
⬆
薬剤 手術 感染症

遺伝素因
特発性（原因不明）
⬇
原発性糸球体腎炎
多発性嚢胞腎
その他



✦透析に代わる
新規腎臓病治療の開発
✦腎臓再生研究の推進

Ⅲ 臨床・臨床研究

わが国におけるCKD患者は年々増加傾向にあり，該当者は全国で1,300万人を超えると推算されている．CKDが進行し透析導入を余儀なくされた末期腎不全患者数も増加し，平成26年末には約32万人に達した．透析に至ったCKDの原因疾患として，糖尿病患者の急増，高齢化の進展を背景として糖尿病性腎臓病および腎硬化症が増加している．このような状況に対して日本慢性腎臓病対策協議会が設立され，また「CKD診療ガイド・ガイドライン」が発刊され，国，自治体，関係学会，腎臓専門医そしてかかりつけ医によるCKD発症・進行抑制の努力がなされてきた．しかし透析導入患者数の減少には成功しておらず，日本腎臓学会として透析導入患者数の削減は最重要課題の一つである．

1 CKDの基本病態・原病に応じた発症・進行抑制

1 標準治療の普及・遵守を促進する．

2 糖尿病性腎臓病を抑制する（日本糖尿病学会と連携）．
- ❶糖尿病性腎症と糖尿病性腎臓病の疾患概念の確立と普及
- ❷先制医療・Regression/Remissionを目指した糖尿病性腎症に対する診療体制の確立（2.2 参照）
- ❸新規の治療法開発（医師主導治験の推進・介入研究）
- ❹バイオマーカー臨床性能試験

3 難治性腎疾患を克服する．
- ❶新規治療法の開発（医師主導治験の推進・介入研究）
- ❷ガイドラインの評価，改訂および海外研究との連携・比較
- ❸病因・病態解明とバイオマーカーの開発
- ❹新たな指定難病の承認獲得

4 AKI-CKD移行病態を解明し，阻止する．
- ❶AKI診断基準の整備
- ❷バイオマーカーシーズ探索・検証
- ❸新規治療法の開発（医師主導治験の推進・介入研究）

5 思春期CKD患者の小児科から内科への移行医療を充実させる（日本小児腎臓病学会と連携）．
- ❶移行医療ガイドの普及とプログラムの作成サポート体制の整備
- ❷アウトカム評価

2 腎臓病診療改善のためのICT整備・導入

1 J-CKD-DBを用いた大規模横断研究および観察研究の実施と既存のレジストリー・コホート研究との統合を行う（日本医療情報学会と連携）．
- ❶わが国におけるCKD患者の実態調査
- ❷ガイドラインの遵守率・アウトカム調査とガイドライン改訂への連携

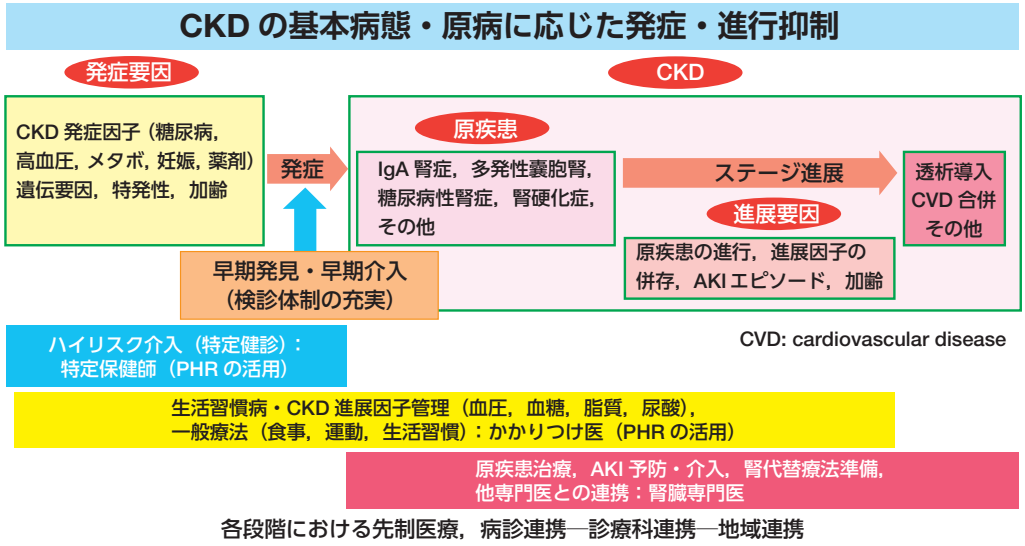
2 パーソナルヘルスレコード（PHR）を用いたCKD進行抑制を目指した管理システムを構築する．（日本医療情報学会と連携）（1．（2❶参照）

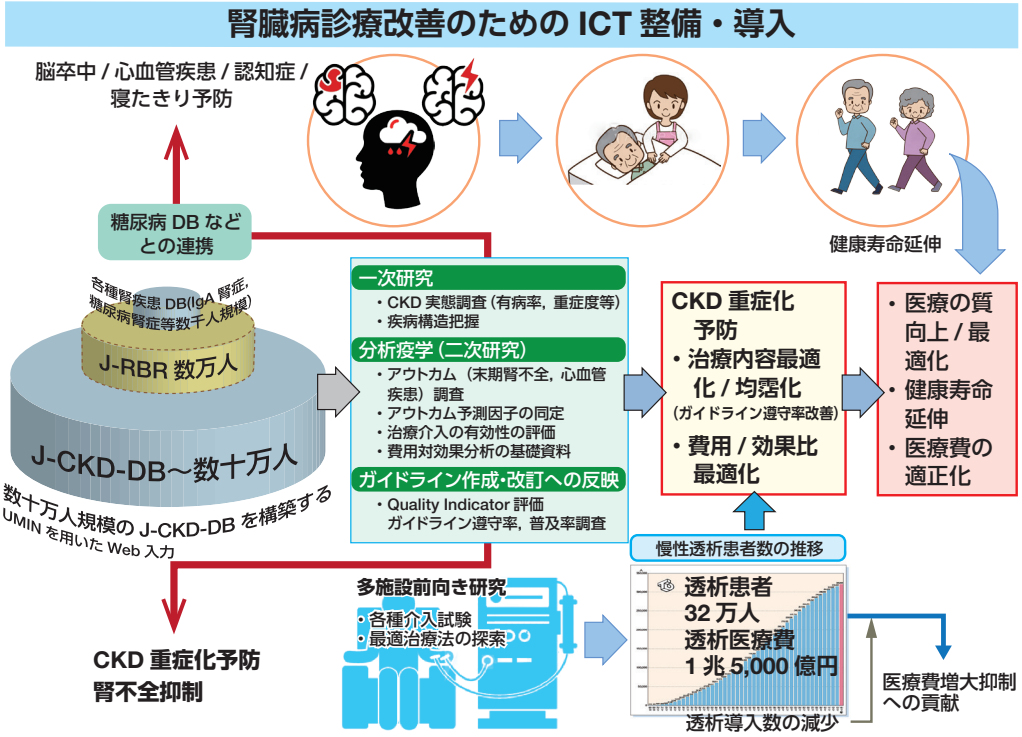
3 超高齢社会における腎臓病診療の適正化

1 高齢者HD（hemodialysis）導入時意思決定支援ツールを作成する(日本透析医学会，日本老年医学会と連携)．

2 QOL（quality of life），患者・家族満足度を重視した高齢者用診療ガイドを作成する（日本老年医学会と連携）．

3 在宅腎代替医療の普及とアウトリーチ活動を行う（日本透析医学会と連携）．





Ⅳ 国際化

日本腎臓学会は，世界の新基軸を構築し，国際的なリーダーシップを発揮するために，以前より国際活動を重視して活動を行ってきている．また，腎臓病の臨床および研究におけるアジア諸国との連携強化と，日本腎臓学会のアジアにおけるプレゼンスの確立も重要である．今後，医療の国際標準化が一層進むものと考えられ，またアジア・南米などの大国の台頭も著しく，第３極における日本のリーダーシップを保つことが難しくなりつつある．この面でも日本腎臓学会が国際的なビジョンを持ち，国際学会において活発な活動をすることにより発言力を確保することは，大変重要と考える．2016年に国際腎臓学会と締結した仙台宣言に基づき，更に学会として国際貢献をするとともに，学会員の国際活動を推進する．

1 アメリカ

1. ASNとの連携を強化する．
2. ASN との研究を強化する．
3. 学会を窓口とした人事交流を活性化する．

2 ヨーロッパ

1. ERA-EDTAとの連携を強化する．
2. ERA-EDTAとの共同研究体制を構築する．
3. 学会を窓口とした人事交流を活性化する．
4. ERA-EDTAとJSN（Japanese Society of Nephrology）の若手腎臓医の交流の場を提供する．

3 アジア

1. APSNとの連携を推進する．
   - ❶APSN CME（Continuing Medical Education）活動との連携・強化
   - ❷日本人Executive committee member の増加
   - ❸APCN（Asian Pacific Congress of Nephrology）2021，APCN2029の誘致
   - ❹AFCKDI（Asian Forum of CKD Initiative）基盤を活用した国際連携
2. 日中韓腎カンファレンスを継続するとともに，それ以外の枠組みを検討する．
   - ❶日中韓腎カンファレンスを基盤とした連携を強化
   - ❷日中韓以外の新規国際腎カンファレンスの設立を検討

❸日本への留学生受入活動

3 アジアとの連携を強化する.

❶アジア関連活動を把握・分析

❷JSN総会でのアジア連携活動を連携・強化

4 国際戦略

1 国際連携による医療水準の標準化を行う.

❶KDIGO（Kidney Disease Improving Global Outcomes）を始めとする国際的な組織との連携を強化し, 医療の国際水準を理解し, 日本人におけるエビデンスを吟味し, 日本における腎臓病医療の質の標準化と向上を行う.

❷世界における腎臓病医療の情報を収集・分析し, 必要に応じ国際連携の立場で腎臓学会から提言を発信する.

2 ISNとの連携を推進する.

❶日本人ISN会員増加

❷ISNにおける理事枠の維持

❸国際腎臓学会の活動への積極的参画

❹CKD進行予防活動, 基礎および臨床系CMEの確立と, 他のアジア諸国への輸出・展開

❺ISN Frontiers Meeting 2018の実施と成功

3 国際学会での広報を更に活性化する.

国際学会における日本腎臓学会のブース設置と広報を継続・強化

4 国際活動に対する褒章を行う.

5 国際活動のための fundingを検討する.

V 教育・人材育成

1 新専門医制度への対応

新専門医制度に向けた準備を行うとともに，新専門医制度に対応した生涯教育プログラムを再構築する．

2 生涯教育プログラムの再構築

学生，研修医，専攻医，専門医，すべてのレベルの生涯教育（CME）プログラムの再構築を行う．腎臓医を目指す医師を発掘し，腎臓学の魅力を伝えるような教育プログラムを充実させていく．特に地方で行われる機会の多い，東部部会，西部部会をCMEの観点から再構築する．

3 教育に関わる人材の育成

教育のコンテンツ(生涯教育講演，試験問題作成，e-ラーニング教材の作成など）を作る若手の人たちをリクルートする．

4 e-learning など ICT による教育支援システムの構築

地方においても教育機会が得られるように，インターネットを用いた学びの場の創出，e-ラーニング教材の作成を行う．

5 若手腎臓医のキャリア形成支援の充実

若手腎臓医のリクルート，キャリア支援を行う．学会役員，学術大会における座長などへの女性の積極的登用を進めるとともに，女性腎臓医が安心して勤務できるような労働環境を整える．

6 研究倫理教育の充実

研究倫理教育に力を入れ，学術大会においては，研究倫理教育講演を実施する．学会発表，雑誌掲載においての研究倫理の遵守を求める．

教育・人材育成

1. 新専門医制度への対応
2. 生涯教育プログラムの再構築
3. 教育に関わる人材の育成
4. e-learning など ICT による教育支援システムの構築
5. 若手腎臓医のキャリア形成支援の充実
6. 研究倫理教育の充実

Ⅵ 地域・社会貢献・産学連携

腎臓病対策を考えるうえで，地に足がついた地域社会との密接な関連とそれに立脚する活動は重要である．腎臓病患者数に比して，腎臓専門医数がまだ不足している現状がある．加えて，専門医の地域偏在も重要な課題である．この点をふまえ，腎臓病の予防・克服に向けて，日本腎臓学会は地域医療との一層の連携を進め，人材育成にも取り組む．
さらに，日本腎臓学会は，国際活動のみならず，国内の地域とも密接に連携し，社会に貢献する活動を重視している．ことに，学会で得た成果を通じて，腎臓病の克服に向けた取り組みを広く国民に知っていただくことは不可欠であると考えている．日本腎臓学会の活動を通じて，広く社会にひらかれた出口戦略として産学連携は重要な視点である．この際，利益相反など社会の模範たる活動に邁進する．

1 地域格差是正を目指した腎臓病診療ネットワークの基盤構築

1 平成28年3月，日本腎臓学会により示された「CKDの発症予防・早期発見・重症化予防に向けた提言」を基盤にして，腎臓病からの新規透析導入患者の減少に向けた取り組みを推進する．
❶全国専門医調査
❷医療機関の診察状況などCKD診療・連携の実態調査
❸遠隔診療支援等専門医不足地域への支援システムの構築・展開
❹腎臓病診療水準向上に向けた，教育支援・啓発活動の推進
❺多職種連携・チーム医療の成功事例の経験知の共有と横展開
❻腎臓病療養指導士制度と連携した関連医療職の拡大

2 腎臓病克服事業を基盤とした社会貢献

1 腎臓病克服を目指し，日本腎臓学会は学会をあげて行政，地域と連携して取り組み，成果を広く社会，国民に還元する．
❶腎臓病包括的対策の推進
❷国民への啓発活動の推進

3 腎臓病克服事業における産学連携推進

1 日本腎臓学会は腎臓病の克服を目指し，腎臓領域の産学連携推進を通じてその成果を社会に広め，情報発信に努める．

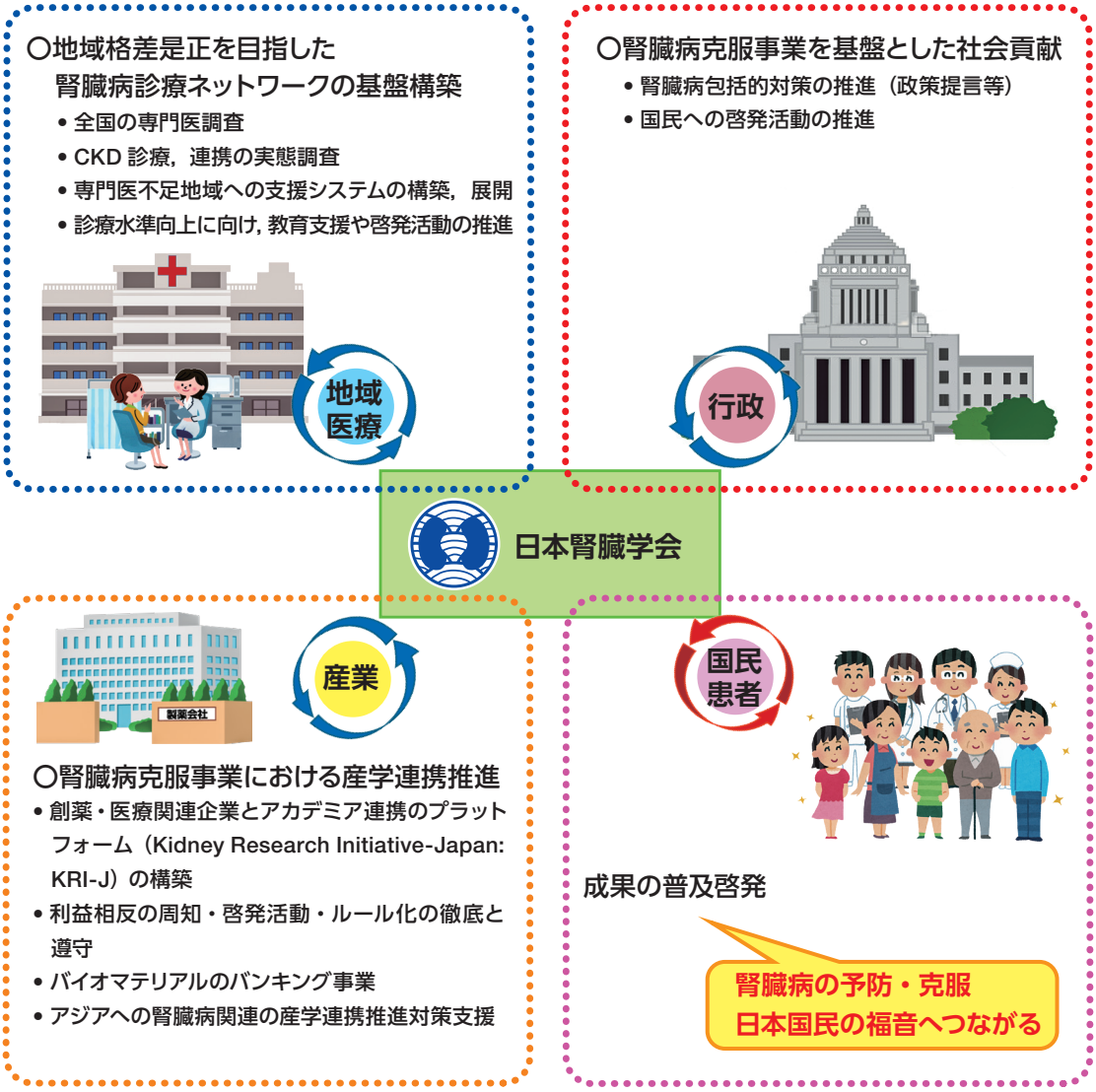
❶創薬・医療関連企業とアカデミア連携のプラットフォーム（Kidney Research Initiative-Japan: KRI-J）の構築

❷利益相反の周知・啓発活動・ルール化の徹底と遵守

❸バイオマテリアルのバンキング事業の推進の検討

❹アジアへの腎臓病関連の産学連携推進対策支援

日本腎臓学会における地域・社会貢献・産業連携の取組み



理事長直轄　重点事業委員会

日本腎臓学会（JSN）5ヵ年計画				
◎ 柏原 直樹　○ 南学 正臣				
Ⅰ．基本方針				
＊ 守山 敏樹	内田 信一	南学 正臣	西　慎一	正木 崇生
Ⅱ．基礎研究				
＊ 西山　成	稲城 玲子	内田 信一	久米 真司	柳田 素子
横尾　隆				
Ⅲ．臨床・臨床研究				
＊ 岡田 浩一	臼井 丈一	菅野 義彦	土井 研人	丸山 彰一
山縣 邦弘	和田 隆志			
Ⅳ．国際化				
＊ 南学 正臣	鈴木 祐介	柳田 素子		
Ⅴ．教育・人材育成				
＊ 門川 俊明	内田 啓子	要　伸也	深川 雅史	丸山 彰一
Ⅵ．地域・社会貢献・産学連携				
＊ 和田 隆志	伊藤 孝史	中山 昌明	西尾 妙織	西山　成
深水　圭	守山 敏樹			

◎：委員長　○：副委員長　＊：チームリーダー

一般社団法人　日本腎臓学会

〒113-0033　東京都文京区本郷三丁目28番8号　日内会館6階

www.jsn.or.jp